

仮設の現状を基調報告

菊池隆さん ⑨

盛岡市のマンションと釜石市の仮設住宅。「二重生活」を続けていた菊池隆さんは今年1月、県が主催する「いわて三陸復興フォーラム」で「被災地の今」をテーマに基調報告した。

全国から復興支援に集まった多くの応援職員も参加するなか、菊池さんはこう語りかけた。「震災から7年になるというのに、なんで仮設住宅の話をするの？ もうオワコン（終わったコンテンツ）で過去の話でしょ、と思うでしょうか」

災害公営住宅や再建した自宅に移る人が増えている一方で、今も仮設住宅に約3千世帯6千人が暮らしていること。当初盛んだった支援が減り、「風化」が強く感じられるようになったこと。退去した空き家にはカビやクモの巣が発生し、長期不在の部屋の郵便受けからチラシがあふれ出ていること。仮設住宅の現状を報告した。

現在も仮設住宅に残っているのは、区画整理の土地引き渡しを待つ人や、災害公営住宅の完成を待つ人たちで、迫られる「自立」への漠然とした不安を抱いている――。入居者の心情を代弁した。

そして、これまでの支援への感謝とともに、こう訴えた。「仮設があれば入居者がいます。そこには何らかの課題が発生します。もう少しの間、仮設入居者に寄り添ってくださるよう、お願いします」

(斎藤徹)